



夕

やけ

小

やけ



令和4年

9月 9日(金)

【その 9】

前号に引き続き、2学期にかけの仲間の思いを聞いてみましょう。2学期が始まって、3年生は全体的にけじめのある落ち着いた生活が送れていると思います。やはり、一人一人の決意が学年の雰囲気表れているのでしょう。ぜひ、このまま全員の進路選択に向けて、“団体戦”で頑張っていきたいですね！



『二学期頑張りたいこと』

夏休みが終わって2学期が始まり、それぞれ自分のやることを終えたクラスの人の姿を見て、自分はしっかりやれたのかとても不安になった。夏休みが終わり、一つの山を越えたと感じるとともに、まだ二学期が残っているとも感じた。僕はそんな二学期を、無駄にしないように頑張りたいと目標を立てた。

一つ目は、勉強についてだ。どこかで、夏を終えたら自分を甘やかしてもいいのでは、と思うようになっていた。確かに「勝負の夏」とも言われるように、一つの山は越えてきた。しかし、今力を抜いてしまうと、今までのことが無駄になってしまう。なので、授業で習ったことをしっかり復習して、予習をすることで勉強をもっと頑張っていこうと思う。

二つ目は、学校の行事だ。修学旅行、運動会と、三年生で最後になってしまう行事が終わってしまう中で、僕は合唱祭を頑張りたいと思った。僕たち三年生や一・二年生は、ひばりが丘中学校に入ってくる前、入ってきた後で行動の制限があった。それは学校行事も同じで、僕たち三年生を含めた全校生徒は、合唱祭を経験しておらず、まったく知らない形で始まろうとしている。行ったことがない中でどのようにするのか、どんなイメージでするのかは分からないが、三年生でやって良かったと思えるような行事が作れば良いと思う。

僕は、二学期の学校生活での目標をしっかりと達成して、後悔のないような二学期にしていきたい。

C 組

- 「夏休み中に頑張るのは、2学期に充実した生活が送れるようにするのが目的ですね。これまでに身につけてきたことは、絶対にこれからの生活に役に立つはずですよ」

『夏休みを振り返って』

私が夏休みで一番心に残っていることは、塾の夏期講習です。

夏期講習は昼の十二時から夜の十時までであり、なかなか大変なものでした。最初はそのスケジュールについていけず、体調を崩しそうになってしまったり、逃げ出しそうになったりしました。また、塾で出される大量の課題に加え、受験に向けての一・二年の復習、V模擬の勉強など、終わりの見えない道のりに、心が折れそうになったことが何度もありました。

しかし、そんなときに支えてくれたのは、家族と塾の仲間たちです。家族は、私が塾から疲れて帰ってきたときに、優しく声をかけてくれたり、母に関しては、毎日塾にお弁当を届けてくれました。塾の仲間たちは、一緒に同じ状況下で戦っている戦友なので、苦しみが共有できましたし、「みんなが頑張っているから、私も頑張らなくちゃ」と、お互いに刺激し合いながら勉強に励むことができました。その結果、以前よりも確実に学力が伸び、精神面でも忍耐やチャレンジする気持ちが身についたと思います。

今年の夏休みは、たくさんの人たちに支えられ、愛や団結力をより濃く感じたものでした。そして、夏休み前の自分から大きく成長でき、一步前進したような気がしています。二学期では、この夏休みで得た力を存分に発揮できるように、さらに勉強量を増やしたり、勉強の仕方を工夫したりしながら、定期試験に向けて頑張っていきたいです。

C 組

- 「ヒ〜フ〜ミ〜…と数えてみると、毎日8〜9時間も勉強してきたんですね。大変なことも、乗り越えてみると確かな自信につながりますね。ぜひ2学期に生かしていこう！」

『二学期の抱負』

中学校最後の夏休みを振り返ると、今までとは大きく変化していたと思う。

例えば、普段より勉強に熱が入ったり、生活リズムがきちんと整っていたり、多くの面で三年生、受験生らしい夏休みを過ごせたと思う。

私は夏休み、社会と理科の一・二年生の範囲と、数学と英語の予習、国語では漢字・長文を読んでいたが、初めは多くのことを忘れていて、ほとんど答えの丸写しだったが、長い間定期的に繰り返すことで解ける問題の数も増えていき、自分に自信がついてきた。私は、定期的に復習することの必要性を改めて学んだと思う。

また、勉強面だけでなく、合唱祭などの行事もたくさんある。合唱祭では、最初で最後なので絶対にやりたいし、三年生らしい姿を一・二年生に見せて、悔いの残らない終わりができたらいいと思う。

D 組

- 「三年生は、これまでの行事で後輩たちに素晴らしいものを残してきました。合唱祭は初めての行事になりますが、ぜひ大切なものを伝えられる機会にできるといいですね」

『夏休みを振り返って』

夏休みを振り返って、私は頑張ったなと自分をほめたいと思った。

一日中塾に行って、受験生だから普通だと分かっているけど、毎日同じルーティーンばかりでストレスを感じる日があった。夏期講習の間はとても大変だったけれど、終わってみると後悔はない。むしろ行って良かったとも思っている。一、二年生のときの復習をして、模試で今まで良くなかった点数がとても上がり嬉しくなった。大変だった日が、ちゃんと身につけていたことが分かり安心した。また、今までよく分かっていなかったところ分かるに変わったのは、とても大きなことだと思う。この夏期講習で学んだことを忘れないように、中間テスト・期末テストに活かしていきたいと思う。

そして、私がこの夏が「ためになった」と思うのは、必ずしも自分が頑張っただけではないと分かったことだ。塾に行かせてくれる、塾の時間に合わせて食事を作ってくれる、休みの日はどこかに連れて行って美味しいものを食べさせてくれる、そんな親にも感謝したいといけないと思う。また、塾の先生や一緒にいる友達にもだ。

やっていたときは、今すぐにでもやめたいと思ったこともあったけど、そういう経験は必ず未来で役立つと思って、今後も引き続き頑張っていきたいと思う。

3 D

●「やはり、案をして貴重なものを手にするというのは難しいことだということですね。

苦勞して身につけたことは、きっと一生自分のために役立っていくことでしょう…」

